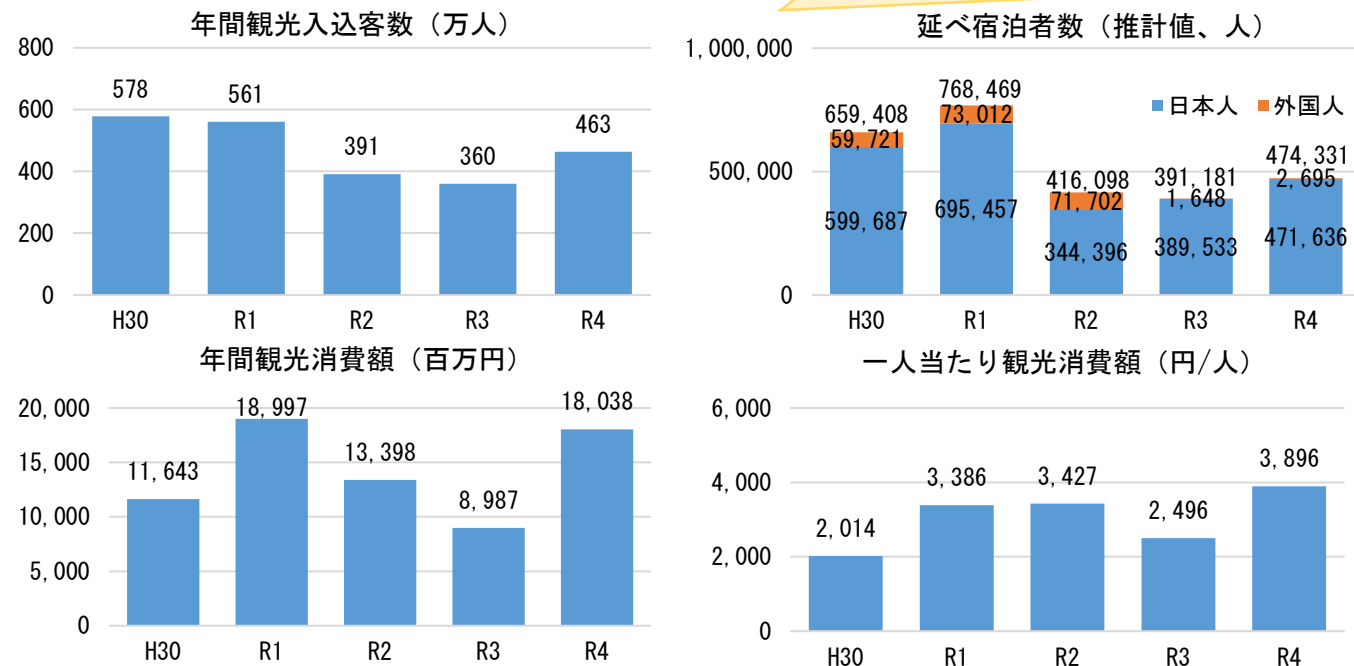


妙高市の主な現状

▼ 本市の強み ▼

● 地域産業を牽引する宿泊業・飲食サービス業は、コロナ禍前の水準まで段階的に回復しており、インバウンド需要も戻りつつあるため、今後の回復が期待される。

年間の観光入込客数や宿泊者数の減少により、観光消費額、一人当たり観光消費額も大幅に減少したが、令和4年時点にはコロナ禍前の水準まで回復しつつある。

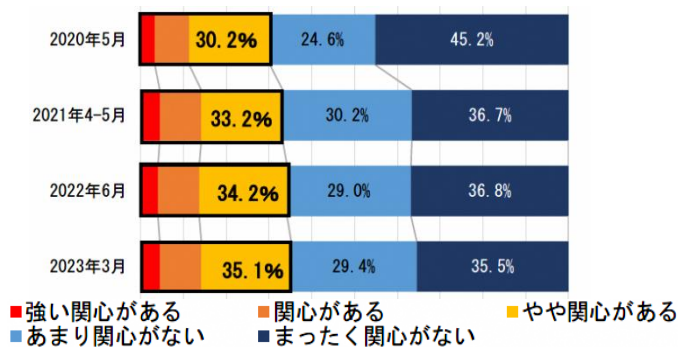


● リモートワークの普及や地方移住への関心が高まっている中、市内における住宅取得等に対する補助制度などによって社会減の減少幅は縮小傾向にある。

● 本市の自然資源などの魅力を活かした、さらなる各種施策の推進が必要となっている。

コロナ禍以降、地方移住への関心が高まっている。

地方移住への関心（東京圏、全年齢）



移住・定住施策実績（件）

制度名	H26～30	R1～4
空き家バンク	137	166
住宅取得等支援	302	372
UIターン家賃補助	32	81

利用者は増加傾向。

社会動態の推移

	転入	転出	増減
合併後平均	878	1,097	-219
過去10年平均	814	1,017	-203
過去5年平均	834	1,006	-172

社会動態の減少幅は縮小傾向。

雄大な眺望景観や豊かな自然環境が本市の魅力。

市民アンケート（妙高市の魅力 上位5項目）

選択肢	割合
妙高山などの雄大な眺望景観がある	76.7%
緑、水などの自然環境が豊かである	69.4%
四季の移ろいがある	63.5%
山の幸や農産物に恵まれて食が豊か	55.2%
災害や犯罪が少ない	51.6%

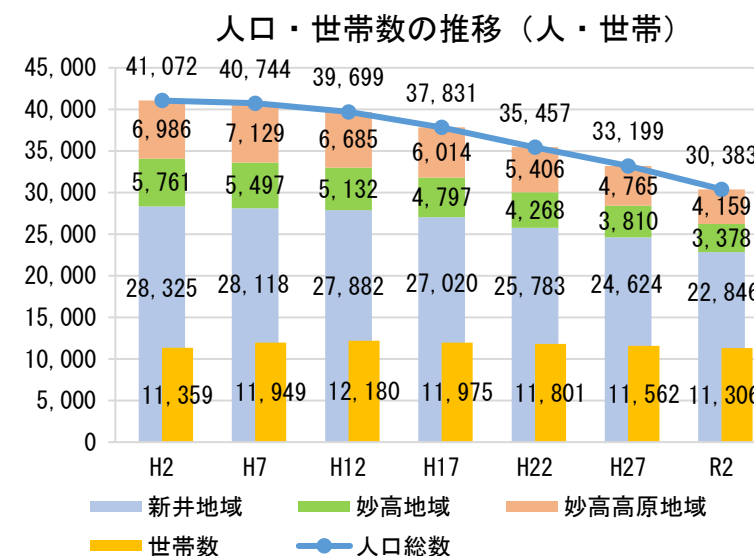
N=386

▼ 本市の弱み ▼

● 20代などの若年層の職業を理由とした転出などを背景に、人口減少や少子高齢化の傾向に歯止めがかかっていない。

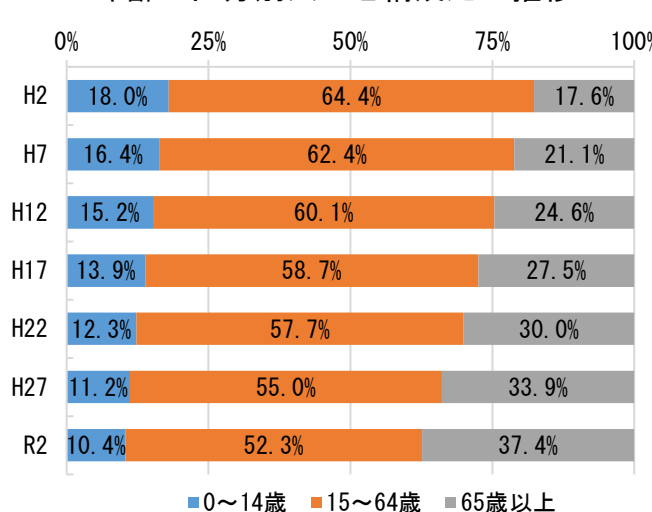
● 15～64歳の生産年齢人口の減少（30年間で約6割の規模まで減少）を背景に、有効求人倍率が多くの職種で1を上回るなど、人手不足の状況が顕在化している。

人口は、過去30年間で約4分の3の規模まで減少。（平成2年：約4.1万人⇒令和2年：約3万人）



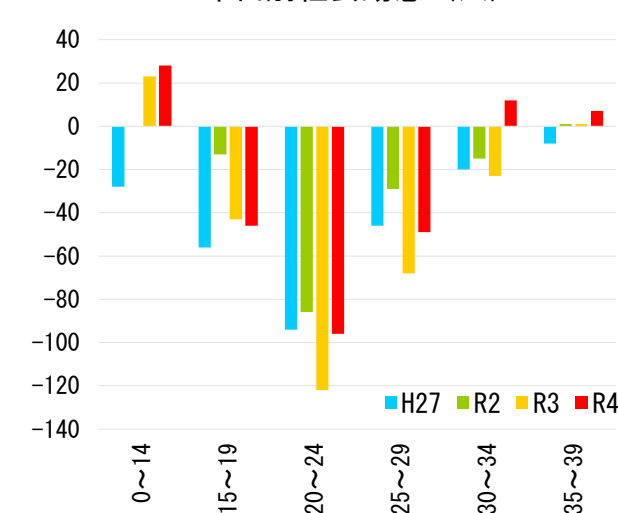
15～64歳の生産年齢人口は、平成2年（30年前）と比較して約6割の規模まで減少。

年齢3区分別人口と構成比の推移



年代別では、15～29歳にかけての転出超過が顕著。

年代別社会動態（人）



上越地域では、特に「建設・採掘」「保安」「サービス」などの職種で人手不足の状況。

職種別有効求人倍率

